

2026 年 7 月 1 日

## 世界 LNG 動向#126 2026 年 6 月

一般財団法人日本エネルギー経済研究所  
資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット  
橋本 裕

はじめに

2026 年 6 月の世界 LNG 市場では、アジアと南アフリカなどで消費市場の拡大につながる動き、北米・アフリカでの LNG 生産プロジェクト開発の前進が顕著に見られた。

東南アジアで LNG 消費市場開発への動きが目立った。マレーシアは 2 件の浮体式 LNG 受入基地開発が推進されており、これには国際企業の協力も含まれている。ベトナムもガス火力発電設備タービンの発注により、LNG 消費の拡大につながる見込みである。韓国では、国内の LNG 受入インフラストラクチャ強化の動き、および長期 LNG 供給確保への動きがみられている。

南アフリカでは、LNG 輸入設備開発への新たな戦略的パートナーシップ、新たな LNG 供給取引が支えとなって、ガス火力発電強化のプログラムに大きな進展があった。

北米は LNG 生産設備の拡大において、引き続き世界を牽引している。ガルフ地域では、米国初の FLNG (浮体液化プロジェクト) に対する FID (最終投資決定) が発表された。陸上の複数の設備では、拡張が継続している。Cheniere は Corpus Christi ステージ 3 プロジェクトの第 6 系列が、実質完成に至った。Venture Global は CP2 設備の年間 1170 万トン拡張計画の許可申請を行った。

アラスカ州では、Alaska LNG プロジェクトが、最新のコスト見積りを公表する一方、同州内向けのガス供給契約でも進展を示した。他方、同州内では LNG 輸入プロジェクト 1 件が、規制機関へのプリファイリング (公式申請前の事前審査) 手続きを申請した。

カナダでは、既存の LNG Canada プロジェクトが生産容量を倍増するフェーズ 2 拡張計画で前進している。2 件の FLNG (浮体 LNG 生産) プロジェクトが、欧州、韓国の企業と新たなコマーシャル上のパートナーシップを結んだ。

アフリカで複数の LNG 生産プロジェクトが前進している。アンゴラで 5 件の洋上油田開発の FID が発表され、これは Angola LNG 設備にも追加の原料ガスを供給することにもつながる。モザンビークで Coral Norte FLNG プロジェクトが EPCIC (エンジニアリング・調達・建設工事・据付・試運転) 契約を締結し、2028 年までに生産開始することを目指している。さらに、Mozambique Rovuma Venture が Rovuma 地域における年間 600 万トンの浮体液化設備の調達に向けた入札の手続きを開始している。

## [北東アジアの 5 月の LNG 輸入貿易統計より、輸入量・価格概要]

月	日本	韓国	中国	台湾	北東アジア	前年同月/期比
5 月 (量)	3.96	2.97	4.86	2.08	13.87	-9.4%
5 月 (価格)	12.07	11.80	11.73	15.25	12.38	
1-5 月 (量)	26.16	19.01	22.76	9.51	77.43	-5.1%

単位: 量 100 万トン、価格 100 万 Btu 当たり米ドル

## [アジア太平洋]

新潟県長岡市と、北陸ガス株式会社、株式会社 INPEX の 100%子会社 INPEX JAPAN は、2026 年 6 月 25 日、INPEX と大阪ガス株式会社が共同で進める「世界最大級のメタネーションによる CO<sub>2</sub>排出削減・有効利用実用化技術開発事業」において製造した e-メタンの環境価値に係るクリーンガス証書の移転契約を締結したことを発表した。

INEOS Energy 社は、2026 年 6 月 2 日、丸紅株式会社との間でアジア市場向け LNG 供給契約を締結したことを発表した。INEOS にとり初めての太平洋地域での LNG 引き渡しとなる。INEOS は DES (持ち届け Ex-Ship) 条件で LNG を引き渡すこととなる。

株式会社 JERA は、2026 年 6 月 18 日、日本郵船株式会社のグループ会社である NYK Bulkship (Asia) Pte. Ltd. および株式会社商船三井との間で、燃料アンモニア輸送船各 2 隻 (計 4 隻) の定期傭船契約を締結したことを発表した。JERA は碧南火力発電所において、2029 年度を目途にアンモニアの大規模燃焼 (熱量比 20%) の商用運転開始を予定している。使用する低炭素アンモニアについては、米国ルイジアナ州における製造プロジェクト「Blue Point」で製造し、本契約に基づき傭船する燃料アンモニア輸送船を活用する。VLGC サイズ (大型) の輸送船がアンモニア輸送に長期で従事するのは世界で初めてとなる。

千代田化工建設株式会社は、2026 年 6 月 29 日、Shell Global Solutions International B.V. との間で、今後グローバルで見込まれるプロジェクトに対応するためのエンジニアリング業務・調達サービス業務に関する包括契約 (Enterprise Framework Agreement) を締結したことを発表した。

韓国の通商産業部は、2026 年 6 月 15 日、カタールがホルムズ海峡の平常の通航が再開されれば、韓国の買主は差別なく優先順位で供給されることを請け合ったと発表した。

韓国の POSCO International は、2026 年 6 月 10 日、韓国南部発電 (KOSPO = 한국남부발전) との間で、河東 (하동군) の発電設備向け燃料供給のため、前者の光陽 LNG 輸入基地・ガスパイプラインの 2029 年 7 月から 2059 年 12 月までの利用に関して、HOA (基本合意) を締結したことを報告した。2026 年 12 月 31 日までに正式契約

締結を意図している。

韓国西部発電 (KOWEPO) は、2026 年 6 月 16 日、2030 年から年間 45 万トンの長期 LNG 供給に関する EOI (関心表明) 募集を、2026 年 6 月 22 日提出期限で開始した。

Lloyd's Register (LR) は、2026 年 6 月 2 日、ハイブリッド・電気推進方式を用いる新世代 LNG 輸送船舶設計で HD Korea Shipbuilding & Offshore Engineering (KSOE)、HD Hyundai Heavy Industries (HHI) と協力することとなったことを発表した。

韓国のサムスン重工業 (SHI) は、2026 年 6 月 5 日、オセアニア地域の船主より、2029 年 1 月 8 日までに引き渡しとして、LNG 輸送船舶 1 隻の建造を受注したことを証券取引所に 2026 年 6 月 8 日付で報告した。

中国 NBS (国家统计局) は、2026 年 6 月 16 日、自国の天然ガス生産について、5 月分は前年同月比 2.2%減の 21.7 bcm (217 億 m<sup>3</sup>)、1 - 5 月分は前年同期比 1.7%増の 111.7 bcm (1117 億 m<sup>3</sup>) となった、と述べた。

台湾經濟部は、2026 年 5 月 30 日、家庭用・発電用顧客向けの天然ガス価格は 6 月分について変更ないが、工業用需要家向けは平均 5%引き上げとなる、と述べた。

丸紅株式会社は、2026 年 6 月 1 日、台湾で LNG 焚き複合火力発電事業を行う長生電力股份有限公司の全保有株式 (40%) を、長生電力の最大株主である Jack Wang Motors グループへ譲渡したことを発表した。長生電力は台湾北部の桃園市に、総発電容量 900 MW の LNG 焚き複合火力発電所を保有しており、台湾の公営電力会社である台湾電力会社との長期売電契約に基づき発電事業を行っている。

2026 年 6 月 18 日、ASEAN・ロシア連邦間のエネルギー協力に関する共同声明が発表され、エネルギー供給の確保・多様化に向け、ガス・LNG 分野を中心に、通商・投資・長期的な商業パートナーシップ含めて、協力を強化することに合意した、としている。ASEAN 縦貫ガスパイプラインを筆頭に ASEAN 主導の諸イニシアティブを支持する、と約束している。

ベトナム PetroVietnam Gas (PV Gas) は、2026 年 6 月 2 日、同 15 - 30 日分 1 件の DES (持ち届け ex-ship) 条件の LNG 購入入札を、同 3 日応札期限で発行した。PV Gas は、6 月 5 日、7 月 5 - 10 日に Thị Vải 基地への DES 条件での LNG 購入入札を、6 月 8 日を応札期限として発行した。PV Gas は、6 月 11 日、同月 20 - 25 日 Thị Vải 基地向け DES 条件の引き渡しの LNG 購入入札を、15 日期限で発行した。

GE Vernova 社は、2026 年 6 月 23 日、ガスタービン 2 基、発電機 2 基を、ベトナム EVN の Quảng Trạch II LNG 火力発電設備向けに受注したことを発表した。この新規コンバインドサイクル発電設備は 1.6 GW 以上を発電する見込みで、2030 年までに本

格稼働が見込まれている。

ベトナム PetroVietnam 社は、2026 年 5 月 25 日、同 21 日午後、自国産業通商省にマレーシア Petronas トップが来訪したことを発表した。この発表によると、Petronas は PetroVietnam と現在の協力枠組をより包括的な戦略エネルギーパートナーシップ協定へと強化することを検討するとのこと。

ベトナム PetroVietnam 社は、2026 年 5 月 26 日、ロシア Novatek 社と、実務レベル会合を行ったことを発表した。両社は LNG チェーンにおける協力機会の見直しをすることで合意した。

株式会社 JERA は、2026 年 6 月 10 日、マレーシア PETRONAS 子会社である PETRONAS LNG Ltd. との間で LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。主にマレーシア国内で生産される LNG を 2028 年から 20 年間にわたり、年間最大約 200 万トン購入する。

マレーシア PETRONAS、イタリア Eni は、2026 年 6 月 8 日、マレーシア、インドネシアの特定の資産を統合する両社間の 50:50 合弁事業 Searah の設立を発表した。

マレーシア PETRONAS Gas (PGB) 社は、2026 年 6 月 4 日、TNB Power Generation 社子会社 INTEGRAX 社と、ペラク州 Lumut での自国第 3 気化基地 (RGT-3) 開発に向け両社間の公式な協力関係を確立する株主間契約 (SHA) に向けた拘束力ある HOA (基本合意) を締結したことを発表した。SHA 最終化・締結後に特別目的会社 (SPV) が設立される。RGT-3 は FSRU (浮体貯蔵・気化設備) コンセプトに基づき開発される。LNG 気化ガスは、RGT-3 陸上・棧橋設備から、半島ガス利用システムへと接続パイプライン経由で輸送される。RGT-3 は LNG 貯蔵容量 170,000 m<sup>3</sup>、気化送出容量日量 0.5 bcf で設計される。RGT-3 容量は、TNB Fuel Services 社 (TNBF) により段階的に、2030 年以降は全容量裏打ちされている。

東京ガス株式会社は、2026 年 5 月 15 日、マレーシア Gas Malaysia 社、エネルギー貯蔵・ターミナル事業会社 VTTI 社と、マレーシアにおける LNG 受入基地「RGT Yan」の共同開発契約を締結したことを同 6 月 8 日に発表した。本基地は、マレーシア・ケダ州ヤン地区のプラウ・ブンティング沖に FSRU (浮体貯蔵・気化設備) を設置する。年間最大 600 万トンを見込んでいるとしている。

ConocoPhillips は、2026 年 6 月 3 日、インドネシア North Hub LNG 売主達と複数の長期 LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。東カリマンタン Bontang LNG 設備近くの Kutai 堆積盆地の大水深天然ガス資源の開発を支えることが期待される。

インドネシア政府エネルギー・鉱物資源省は、2026 年 6 月 25 日、Abadi Masela ガスプロジェクトは 2027 年建設開始見込みで、2030 年までに生産開始することを目標としている。

インドネシアのエネルギー・鉱物資源省は、2026 年 6 月 25 日、東ジャワ Tuban の小規模 LNG 設備が、Sumber Aneka Gas の操業により稼働開始した、と述べた。この設備では、原料ガスを処理して LNG、LPG、コンデンセートなど複数の高付加価値製品にしている。このガス供給は、2035 年まで、Pertamina Hulu Energi Tuban East Java が操業する Sumber ガス田からもたらされる。このミニ LNG 設備の最大生産容量は年間 55,300 トンに相当する。この発電所は、ジャワ、バリ、スラウェシ全域の工業部門や発電所に供給することを目指している。

インドネシアのエネルギー・鉱物資源省は、2026 年 6 月 9 日、メタン排出量把握に向けた取組を進めることを明らかにした。具体的には「オンライン報告・監視システム、データ収集方法の整備」を挙げ、「メタン排出管理に関する理解を強化するためには研修やワークショップを通じた能力向上が重要」とした。

2026 年 6 月 25 日の bp 発表によると、インドの ONGC (Oil and Natural Gas Corporation) と bp は西部沖合盆地の ONGC ガス・油田に対して新たな技術サービス契約を締結した。43 鉱区からなる西部沖合盆地は、ONGC で最も生産量の多い炭化水素生産盆地である。この協力は、生産の自然減少を緩和し、炭化水素回収と運用効率を向上させ、持続的な生産成長を支援することを目指す。今回の契約は、2025 年 2 月に ONGC と bp が Mumbai High のために締結した技術サービス契約を基盤とするもの。

パキスタン Pakistan LNG は 2026 年 6 月、Port Qasim 基地への引き渡し DES 条件の LNG カーゴ購入入札を複数回実施している。この内、少なくとも 2 件はキャンセルした。

バングラデシュ Petrobangla 子会社 RPGCL は 2026 年 6 月、Moheshkhali 基地への引き渡し DES 条件の LNG カーゴ購入入札を複数回実施している。

シンガポールの Sembcorp Industries は、2026 年 6 月 12 日、自社のオーストラリア子会社 2 社が、Pioneer Sail Holdings 社と Latrobe Valley Power (Holdings) 社の株式取得を完了したと発表した。Sembcorp が 2025 年 12 月 11 日に発表した、Chow Tai Fook Enterprises 社からの Alinta Energy の株式 100%取得が完了したことになる。Alinta は、1,000 人を超える従業員、オーストラリア全土の約 110 万人の顧客およびパートナーを含む主要なステークホルダーの継続性を確保するため、既存のブランドと運営体制の下で事業を継続する。

オーストラリアのクィーンズランド州のガス企業 Denison は、2026 年 6 月 19 日、同州中部 Bowen 盆地内、Denison Trough の Baffle Creek ガス田における資源の発見を確認した。この発見の規模のポテンシャルにより、Denison は今後 12 ヶ月間にガス処理設備・コンデンセート貯蔵設備の容量を 2 倍増する投資を行うこととなった。Denison の最新 4 本の探査井の探査プログラムにより、深度の砂岩層にタイトガス資源が実証された。これら探査井からのガスも既に国内市場に供給している。破碎刺激、試験を 2026 年第 3 四半期に予定しており、ガスは東部ガス市場向けに近隣のパイプラインへと接続されることとなる。

オーストラリア Santos 社は、2026 年 6 月 29 日、サウスオーストラリア州政府とガス販売協定 (GSA) を締結、2030 年から 2040 年までの 10 年間にサウスオーストラリア戦略ガス留保分として 200 PJ (367.5 万トン) の国内用ガスを供給することを発表した。

オーストラリア Woodside Energy 社は、2026 年 6 月 23 日、Alcoa 社と、Woodside のウエスタンオーストラリア州での事業から、2027 年から 2030 年に国内ガス供給 31.1 ペタジュール (PJ) (57 万トン) のポートフォリオ型供給について SPA (売買契約) を締結したことを発表した。この発表によると、この契約は、ウエスタンオーストラリア州の州内ガス政策が、主要な工業用需要家へのガス供給を支え主要な製造業における、排出がより低いエネルギーの利用を可能とする安定的かつ予測可能な政策設定を提供する上で、効果を維持していることを裏付けている。2025 年、Woodside のウエスタンオーストラリア州における天然ガス生産中のシェアは 90.3 ペタジュール (PJ) (166 万トン) と、州内向けガス供給の 21%を占めた。

2026 年 6 月 2 日の bp 公表によると、bp はウエスタンオーストラリア州 Browse LNG プロジェクト持分中、5%を韓国 GS Energy 社に売却することに合意した。この売却で同プロジェクトの bp 持分は 39.33%となる。

オーストラリア Woodside Energy 社は、2026 年 6 月 12 日、PetroChina International Investment (Australia) 社 (CNPC) による 10.67% Browse Joint Venture (BJV) 参加権 10.67%の株式会社 INPEX への売却に関して先買権を行使することを発表した。これにより Woodside の合計持分は 41.27%に増加する。この取引は、初期 2.25 億米ドルの支払いと、2032 年 6 月 30 日までにプロジェクトが FID (最終投資決定) に達することに基づく 1.75 億米ドルの条件付き支払いを含む。当該天然ガス資源におけるシェアを拡大することで、Woodside はこの上流の供給を既存の North West Shelf インフラストラクチャに統合することを目指す。同社は、この買収がアジア太平洋地域

およびウエスタンオーストラリア州内市場へのエネルギー供給能力を強化するものであると強調した。

オーストラリア Woodside Energy 社は、2026 年 6 月 15 日、メディアの憶測に関して、Exxon Mobil 社との取引可能性に関して、提案も関知しておらず、話し合いもしていない、と確認した。

オーストラリア Woodside Energy 社は、2026 年 6 月 25 日、天然ガスへの持続的な投資が国内産業と地域のセキュリティを支えてきた、と述べた。将来の成長に必要な資本を引き寄せるため、安定的な政策環境、一貫した政府の協力の必要性が強調されている。同社によれば、オーストラリアの国内ガス供給留保制度の明確性が重要である。

オーストラリアの OA (Offshore Alliance) 組合連合は、2026 年 6 月 2 日、INPEX 設備にて、作業停止・作業禁止の被保護争議行為が開始された、と述べた。組合側と同社が、16 日に合意に達し、Ichthys 操業における争議行為は終了した。

ノルウェー BW Offshore 社は、2026 年 6 月 15 日、オーストラリア北部沖で Santos が操業する Barossa LNG プロジェクトのコミッショニング・プログラムの一環としての BW Opal FPSO の暫定パフォーマンステストの完了を発表した。

株式会社 JERA は、2026 年 6 月 12 日、子会社 JERA Australia Pty Ltd を通じて参画する豪州の Barossa ガス田開発プロジェクトで生産された LNG を積載した LNG 船「総州丸」が、富津 LNG 基地に到着したことを発表した。

ニュージーランド政府は、2026 年 6 月 9 日、LNG 輸入設備に関して 2 社が提案招請 (RFP) 段階に移行し、同年内に候補提供者 1 社と契約を締結する意図であり、2028 年稼働を見込んでいることを発表した。

## [北米]

Cheniere Energy 社は、2026 年 6 月 12 日、テキサス州 Corpus Christi Liquefaction (CCL) ステージ 3 プロジェクト第 6 系列の実質完成を発表した。Bechtel 社と協力し、Cheniere は全 7 系列・年間 1000 万トン超拡張プロジェクトが 2026 年内に完成することを期待している。同プロジェクトにより CCL の LNG 生産容量は年間 2500 万トン以上、Cheniere 全体としての容量は年間 5500 万トン以上となる見込みとしている。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2026 年 6 月 24 日、Golden Pass LNG Terminal 社に対して、第 2 系列コミッショニング活動開始についての同 22 日付申請を承認する書簡を発行した。

Venture Global CP2 LNG 社、Venture Global CP Express 社は、2026 年 5 月 26 日、

CP2 LNG の LNG 輸出設備、CP Express Pipeline における新規圧送設備の立地・建設・所有・操業・維持に関する申請を行った。この拡張計画は、追加 6 件の液化設備区画、新規ガス火力発電設備 1 基、第 3 栈橋を加え、最大ピーク液化容量を年間 1170 万トン分拡張することとなる。

Venture Global 社、EnBW 社は、2026 年 6 月 17 日、Venture Global のポートフォリオから供給される約 5 年間、年間 82 万トンの LNG 購入に関する新たな拘束力のある複数の契約を締結したことを発表した。この購入は Venture Global のポートフォリオから供給される予定としている。今回の新契約は、両社間の既存の 20 年間・合計年間 200 万トン分の複数の長期 SPA (売買契約) に上乗せとなる。

NextDecade 社は、2026 年 6 月 22 日、Rio Grande LNG 社がシニア担保証券のオファーおよび販売を非公開で行う意向を発表した。RGLNG は、シニア担保付きノートのオファー・販売による純収益を、(i) 既存の信用契約に基づく未払い借入の一部を返済し、(ii) 関連手数料や費用の支払いに充て、(iii) 該当する場合の金利ヘッジ終了支払いの支払いまたは準備に用いることを意図しているとしている。

韓国のサムスン重工業 (SHI) は、2026 年 6 月 1 日、北米の買い手向けに洋上生産設備 1 件の建造を受注したことを報告した。2030 年 7 月 10 日までに引き渡すこととしている。

Delfin Midstream 社は、2026 年 6 月 3 日、ルイジアナ州沖で開発中の Delfin LNG プロジェクト 1 隻目の FLNG (浮体液化天然ガス設備) の FID (最終投資決定) を行ったことを発表した。Delfin FLNG 1 は米国最初の浮体液化設備、世界最大の FLNG プロジェクトとして年間 440 万トンの輸出容量を持つこととなる。この FID と同時に、BlackRock 傘下の Global Infrastructure Partners (GIP) を筆頭として、既存の Delfin 投資家として株式会社商船三井 (MOL)、Vitol、オルタナティブ・クレジット運用会社 Diameter Capital Partners を含む投資家達が、同プロジェクトに投資することに合意している。Delfin FLNG 1 は Vitol、Expand Energy、Centrica、Gunvor との長期の LNG 販売契約に支えられ、建設開始に向けて必要な許可承認を全て確保している。Delfin 最初の FLNG 船舶の建造契約は、サムスン重工業、Black & Veatch との間で締結されている。1 隻目は 2030 年に LNG を生産開始する予定である。

Vitol は、2026 年 6 月 4 日、Delfin FLNG 1 に投資したことを発表した。Vitol は同プロジェクトの出資者でもあり、完成すれば、年間 140 万トンで最大の引き取り者ともなる。

Vitol 社、International Resources Holding (IRH) 子会社 IRH Global Trading 社は、

2026 年 6 月 25 日、天然ガス SPA(売買契約) を締結したことを発表した。Vitol は年間 100 万トンの LNG を FOB(本船渡し) 条件で IRH 向けに 20 年間供給する。

丸紅株式会社は、2026 年 6 月 17 日、米国テキサス州 Barnett シェール層に天然ガス権益を保有し、その開発・生産・販売などを手掛ける EagleRidge Energy II LLC の全持分を取得し、完全子会社化したことを発表した。

Chevron 社は、2026 年 6 月 17 日、power-for-AI ビジネス分野で拡張方針であると述べた。この部門での同社最初のプロジェクトは、Microsoft 社のデータセンター向けに、現場での電力を供給するものとなる。

Chevron 社は、2026 年 6 月 22 日、完全子会社 Energy Forge One が、20 年間の電力購入契約下で Microsoft 社が運営するデータセンター専用に電力を供給することとなる、共立地電力施設をテキサス州西部に建設する合意を Microsoft と締結したと発表した。Chevron、Engine No. 1 は本件 Project Kilby の開発で協力している。Kilby は容量 2.67 GW をもたらす見込みで、段階的に拡張するモジュラー型手法を採用している。発電の大半は GE Vernova 社製の大型タービン・関連インフラストラクチャにより、追加容量を Caterpillar 社の完全子会社 Solar Turbines によりもたらすものとしている。これにより Kilby は米国内での天然ガス火力発電・データセンターの同地一体開発として最大級となる。Chevron による FID(最終投資決定) は 2026 年末までに見込まれる。発電開始は 2028 年と予想される。

Cook Inlet LNG 社は、2026 年 6 月 1 日、Cook Inlet LNG プロジェクトについて、FERC(米連邦エネルギー規制委員会) プリファイリング(事前審査) 手続き開始の許可を申請した。Cook Inlet LNG は、米アラスカ州クックインレットのウエストフォーランド沖 2 マイルに LNG 輸入基地を建設・操業する計画である。既存の石油・ガス生産のプラットフォーム、パイプラインインフラストラクチャを活用し、FSRU(浮体貯蔵・気化設備) の繫留システム、プラットフォームと地元パイプライン網を接続する代替パイプの短区間を除いて、新規設備を必要としない。

Glenfarne 社は、2026 年 6 月 3 日、Alaska LNG プロジェクトのコスト見積 2026 年米ドルで 445-545 億米ドルを公表した。フェーズ I(パイプライン): 132-169 億米ドル、フェーズ II(LNG 設備): 236-284 億米ドル、フェーズ II(ガス処理設備): 77-92 億米ドルとしている。パイプライン見積はクラス 2 見積で-10%-15%の確度である。LNG・ガス処理設備は依然としてクラス 4 水準の 30%確度に留まっている。アラスカ州の料金負担者(一般消費者)をコスト超過から保護するため、Glenfarne は Enstar と固定価格のガス販売契約を締結した。第 1 段階の価格: 100 万 Btu 当たり 16 米ドル(インフ

レーションに連動)。第 2 段階の価格: パイプラインの流量が日量 3 bcf を超えた時点で、5 米ドルまで下がる見込みとしている。

Glenfarne 社は、2026 年 6 月 12 日、同州の建設関連労働組合と Glenfarne Alaska LNG 社の子会社 8 Star Alaska 社が、Alaska LNG プロジェクト建設での同州労働者を優先する MoU (覚書) を締結したことを発表した。

Glenfarne 社の子会社 Glenfarne Alaska LNG は、2026 年 6 月 15 日、Chugach Electric Association との間で Alaska LNG パイプラインからの天然ガス供給について LOI (意思表明書) を締結したことを発表した。

オーストラリア Santos 社は、2026 年 6 月 23 日、米国アラスカ州 North Slope の Pikka Phase 1 石油プロジェクトで持続的な生産を開始、初期の複数井が稼働して総生産量日量 20,000 バレルとなったことを発表した。同社は今後数週間、海水注入による圧力支援を開始し、その後追加の生産井を稼働させる予定で、2026 年第 3 四半期には日量 80,000 バレルの定常生産に至る予定としている。

カナダとアイルランドの両首脳は、2026 年 6 月 13 日、両国の深く持続的な関係を再確認した。特に石油・ガス分野においてベストプラクティスの交換を通じてメタン排出削減に関する長期協力を約束し、透明性の向上と国際的なメタン排出管理対策の推進に協力することを約束した。これにはグローバルメタンプレッジや UNFCCC のような多国間フォーラムでの調整も含まれるとした。

Fluor Corporation は、2026 年 6 月 1 日、日揮グローバル株式会社との合弁会社である JGC Fluor BC LNG II (JFJV2) が、カナダ・ブリティッシュコロンビア州キティマットにある LNG Canada 輸出設備の第 2 期拡張計画について限定着工通知 (LNTP) を受けたことを発表した。同じ合弁事業パートナー (JFJV) は、LNG Canada の第 1 期において、エンジニアリング、調達、組み立て管理、建設、コミッションング (試運転) 業務を提供した。2025 年、JFJV は、同プロジェクトの 2 本の液化処理系列と、貯蔵タンク、鉄道ヤード、水処理施設、フレアスタック、海洋基地などの支援インフラストラクチャを納入した。第 2 期拡張は、FID (最終投資決定) が達成されれば、設備の生産容量は 2 倍になる。LNG Canada は、Shell (40%)、PETRONAS (25%)、中国石油 (15%)、三菱商事 (15%)、KOGAS (韓国ガス公社) (5%) で構成される合弁事業である。JFJV2 は、Fluor Canada Ltd (50%) と JGC Constructors (No2) BC Ltd (50%) の合弁事業である。

ドイツ Uniper は、2026 年 6 月 8 日、カナダ Ksi Lisims LNG と SPA (売買契約) に向けた主要諸条件を概説する LOI (意思確認書) を締結したことを発表した。この SPA

では、Uniper が長期ベースで年間 200 万トンの LNG を購入することとなる。Ksi Lisims LNG は、ブリティッシュコロンビア州北西沿岸で Nisga'a Nation、Rockies LNG、Western LNG のパートナーシップで開発される年間 1200 万トンの浮体輸出設備計画である。FID (最終投資決定) を条件に建設は 2027 年初に開始する可能性が高い。Uniper は早ければ 2032 年に LNG 引き取りを開始する可能性がある。

韓国ハンファオーシャン社は、2026 年 6 月 16 日、カナダの Kanata Clean Power & Climate Technologies 社との間で、ブリティッシュコロンビア州プリンスルパートで計画する FLNG (浮体液化天然ガス) 輸出プロジェクト Kanata LNG についての非拘束 MOU (覚書) 締結を発表した。Kanata が計画する同プロジェクトは、最大年間 1200 万トンの容量を持つ見込み。Kanata は同プロジェクトの最大 50%までの所有権取得をファーストネイションズにオファーしている。

英 Centrica Energy 社は、2026 年 6 月 3 日、カナダ Peyto Exploration & Development 社との長期天然ガス購入契約締結を発表した。Peyto は日量 50,000 百万 Btu の天然ガスを Centrica Energy 向けに 2029 年から 10 年間供給することとなる。これは LNG 年間 5 カargoに相当する。引き渡しは、カナダのアルバータ州 AECO ハブで行われることとなる。このガスは、TTF に沿って価格設定される。

Sempra 子会社 Sempra Infrastructure は、2026 年 6 月 4 日、メキシコ エンセナダの ECA LNG フェーズ 1 液化プロジェクトが、LNG 生産を開始したことを発表した。同プロジェクトは TotalEnergies 社との合弁事業で、公称容量年間 325 万トンの液化系列 1 本で構成する。同プロジェクトは TotalEnergies、三井物産株式会社それぞれとの長期 SPA (売買契約) により支えられている。ECA LNG フェーズ 1 は 2026 年夏実質完成の到達する見込みで、その後ほどなく長期 SPAs 下の販売が開始される。同地で第 2 フェーズも開発中である。

Epsilon LNG 社は、2026 年 5 月 29 日、DOE/HGEO (米エネルギー省 / 炭化水素・地熱エネルギー局) 提出レターの中で、自社子会社メキシコのソノラ州 Amigo LNG 社・Macquarie Energy 社間の同 8 日付の天然ガス売買契約条項の修正アップデートを報告した。契約量の増量を報告するものである。Amigo LNG 第 1 系列は、Macquaire が引き取りを年間 60 万トンから 100 万トンに増量、オマーン OQ Trading 社が最近年間 60 万トンから 90 万トンに増量しており、売り切れとなったとしている。

#### [中東]

株式会社 INPEX、TotalEnergies、bp は、2026 年 6 月 24 - 25 日、Bab 油田ガスキ

キャップ開発利権契約を締結したことをそれぞれ発表した。JOL (JODCO Onshore Limited) /INPEX 持分は 5%、TotalEnergies・bp は各 10%である。パートナーは ADNOC (60%)、CNPC (8%)、ZhenHua (4%)、GS Energy (3%) である。この新利権は、ADNOC Onshore がオペレーターとなり、Bab 陸上油田のガスキャップ資源を開発することとなり、生産目標は日量 1.5 bcf (15 億立方フィート、年間 1139 万トン相当) である。

カタール QatarEnergy 社は、2026 年 6 月 22 日、ラスラファン工業地帯 Barzan 国内ガス供給設備の同月 21 日の爆発火災で 13 人死亡・66 人が医療処置を受けていることを確認した。死亡者はインド、パキスタン国籍、負傷者はカタール、インド、パキスタン、バングラデシュ、ケニア、ガーナ、タンザニア、ナイジェリア国籍である。QatarEnergy は、操業上の事故によるもので、妨害活動や敵対的な行為によるものではない、と述べた。Barzan 生産は、2025 年 12 月以降、緊急のメンテナンスの必要のため完全に停止しており、事故の 2 日前に再稼働していた。

#### [アフリカ]

スエズ運河管理局 (SCA) は、2026 年 6 月 7 日、標準の運河通航料に追加して支払う賦課金の 7 月 15 日以降の分について、LNG タンカー向けの従来の 7%から 19%に引き上げることを含めて、発表した。

南アフリカの Eskom と Zululand Energy Terminal (ZET) は、2026 年 6 月 5 日、自国のガス火力発電プログラムを支援するための長期戦略的パートナーシップの枠組みを確立する HoA (基本合意書) を締結したことを発表した。Eskom は、LNG の輸入、貯蔵、気化インフラストラクチャへのオープンアクセスを提供する予定の Zululand Energy Terminal において、「基盤顧客」としての地位を獲得し、Eskom が計画している 3 GW のガス火力発電プログラムを支えることになる。Royal Vopak 傘下の Vopak Terminal Durban、南アフリカ企業 Reatile 社、Transnet Pipelines (Transnet SOC 社傘下) 間の合弁事業 ZET は、同 LNG 基地開発、建設、操業、メンテナンスの操業権を Transnet National Ports Authority (TNPA) より与えられている。Eskom の Richards Bay 3 GW ガス火力発電所プロジェクトは、クワズール・ナタール州の Richards Bay 工業開発区 (RBIDZ) に建設・運営される予定である。Eskom の Richards Bay プロジェクトでは、LNG を輸入・消費し、発電所の主要燃料として使用することを想定している。発電所の耐用年数は 25 年と見込まれている。

南アフリカの Zululand Energy Terminal (ZET) 社は、2026 年 6 月 17 日、

ExxonMobil South Africa LNG 社と、Richards Bay 港湾での自国最初の LNG 輸入基地向けに、HOA(基本合意)を締結したことを発表した。モザンビーク Pande-Temane ガス田群からの既存ガス供給が減少している。Zululand Energy Terminal は、Vopak Terminal Durban 社・Transnet Pipelines 社間の合弁事業として開発されている。

南アフリカの Zululand Energy Terminal (ZET) 社は、2026 年 6 月 18 日、EPC (エンジニアリング・調達・建設) 請負会社の EOI (関心表明) プロセスを開始した。この EOI プロセスは、7 月 9 日の期限を予定している。

Eni 社は、2026 年 6 月 22 日、Azule Energy を通じて、アンゴラ沖 31・31/21 鉱区の Greater PAJ 沖合石油開発プロジェクトの FID(最終投資決定)を発表した。同プロジェクトは、Eni・bp が折半所有する Azule Energy がオペレーションを担当し、Sonangol E&P、Equinor が参加している。Greater PAJ はアンゴラで最初の複数鉱区にまたがる統合型開発である。石油生産は、3 年未満の 2029 年前半に見込まれる。第 31 鉱区 Palas、Astraea、Juno、第 31/21 鉱区 Urano、Dione 油田を開発する。全体としての開発コンセプトは、of 17 生産井を新規 FPSO (浮体生産・貯蔵・積み出し船舶) に結び、公称容量は石油日量 95,000 バレル、天然ガスは日量 7000 万標準立方フィートで、このガスは第 31 鉱区の既存の搬出パイプライン網につなぎ込まれる新規のガス搬出ラインにより、Angola LNG (ALNG) 設備へと供給されることとなる。

日揮ホールディングス株式会社は、2026 年 6 月 8 日、JGC France 社が仏 Technip Energies 社および韓国サムスン重工業 (SHI) 社と共同で、伊 ENI 社などが開発するモザンビーク向け年間 360 万トンの洋上 LNG プラント建設プロジェクト (Coral Norte または Coral North) の EPCIC (設計、機材調達、建設工事、据付および試運転) 役務を受注したことを発表した。生産開始予定は 2028 年としている。モザンビークとして 2 基目となる FLNG プラントを新設するものである。JGC France / Technip Energies により構成されるジョイントベンチャーは、主に FLNG トップサイドの設計・機材調達、およびプロジェクト全体の管理を担当し、サムスン重工業 (SHI) が FLNG 船体の EPC およびトップサイドのファブリケーションを担当する。

韓国のサムスン重工業 (SHI) は、2026 年 6 月 5 日、アフリカ地域の買い手から沖合生産設備建造を受注したことを、同 8 日付で証券取引所に報告した。2029 年 9 月 30 日までに引き渡すとしている。

モザンビーク Mozambique Rovuma Venture (MRV) は、2026 年 6 月 25 日、大規模な FLNG (浮体液化天然ガス) 設備の開発に関する公式関心表明招請を発表した。同プロジェクトは、Rovuma 盆地の大水深区域に年間 600 万トンを生産できる設備を設置

することを旨とする。資格を持つ請負業者は、包括的なエンジニアリング、調達、建設、設置の各段階を管理するために、高度な技術的専門知識と財務的安定性を示さなければならない。この調達段階は、2026 年に予定される競争入札に向けた初期準備ステップであり、最終的な目標は 2031 年までに生産開始となる。

#### [欧州・周辺地域]

欧州のガスインフラストラクチャー企業の業界団体 Gas Infrastructure Europe (GIE) は、2026 年 6 月 5 日付のプレスリリースで、欧州連合 (EU) によるガス貯蔵設備の管理方法の根本的な転換を提唱した。GIE は、現行の政策は供給ショックに対する保険としての貯蔵のより広範な戦略的価値を認識するよりも、貯蔵量に基づく目標達成に重点を置き過ぎていると主張する。GIE は、加盟国がエネルギー安全保障対策を地域市場のニーズに合わせて調整できる、柔軟な規制・行政メカニズムのツールボックスを提案している。

米国、カタール、ナイジェリア、アルジェリアのエネルギー相は、2026 年 6 月 24 日、欧州の指導者に対し、今後のメタン排出規制に関する書簡を発表した。書簡は、現状決められている監視・報告要件は、殆どの世界の輸出者にとって定められた期間内に達成不可能であると主張している。書簡は、この厳しい基準が 2027 年から欧州全体で大規模なエネルギー不足や大幅な価格上昇を引き起こす可能性があるとして指摘している。書簡は「時計を止める」メカニズムと、既存の契約を違反罰則から守る修正案を提案している。排出削減へのコミットメントを表明しつつも、法的・財務的リスクが現在、石油とガスの安全な流れを妨げていることを強調している。書簡は、欧州連合に対し、地域のエネルギー安全保障を継続するためによりプラグマティックな実施戦略を採用することを求めている。

IGU (国際ガス連盟) は、2026 年 6 月 26 日、IGU は欧州連合のメタン規制について緊急の懸念を示した。現行の枠組がエネルギー安全保障と市場の安定を脅かすと指摘した。排出削減を支持する一方で、2027 年に設定されている厳格なペナルティが、輸入者を非遵守状態に追い込み、必要なインフラストラクチャー投資を失速させる、と指摘している。消費者にとってのコスト上昇を防ぐため、業界の現実に沿い多様化を促進する規制政策を提唱している。

英国の Grain LNG は、2026 年 6 月 12 日、2029 年から利用可能な気化容量への関心表明、提案されている容量シェアリング方式に対するフィードバックを招請した。既存契約が終了することで 2029 年 10 月から容量が利用可能となる見込みで、市場参加

者には同基地の既存インフラストラクチャへの長期アクセス確保の機会となる。対象となる容量は、LNG 貯蔵 200,000 m<sup>3</sup>、気化容量日量 125 GWh (年間 300 万トン)、これらに伴う棧橋利用権である。

オランダ Gasunie 社は、2026 年 6 月 1 日、Gasunie ・ Vopak がエームスハーフェン (フロニンゲン) の EemsEnergyTerminal LNG 基地の 2027 年以降について、2028 - 2036 年期間についての最近締結された複数のコマーシャル上の契約、政府のコミットメントの保証に基づき、条件付き投資決定 (cFID) を行ったことを発表した。必要な複数の承認が確保された後、FID (最終投資決定) が続くとしている。

Capital Clean Energy Carriers 社 (CCEC) は、2026 年 6 月 12 日、CMA CGM 社との合弁事業設立を発表した。この 50:50 合弁事業は、20,000 m<sup>3</sup> 複数種燃料 LNG バンカリング用船舶 1 隻の建造、備船、運航目的で設立された。同合弁事業は、Nantong CIMC Sinopacific Offshore & Engineering 社 (CIMC SOE = 南通中集太平洋海洋工程有限公司) と、当該船舶の 2028 年第 3 四半期引き渡し見込みで造船契約を締結している。同合弁事業は、CMA CGM 社 ・ TotalEnergies 社間の合弁事業と 12 年間の定期備船契約を締結する見込み。

ドイツのエネルギー企業 EWE は、2026 年 6 月 9 日、Salzgitter Flachstahl 社と、グリーン水素供給の長期契約を締結したことを発表した。EWE がエムデンに建設中の 320 MW 生産設備から最初の水素販売契約で、Salzgitter 社にとって水素供給者との最初の大型契約でもある。2030 年から当初 7 年間、水素専用ネットワークを通じて年間 10,000 トンを供給する計画である。このグリーン水素は、Salzgitter 社の低 CO<sub>2</sub> 製鉄 SALCOS® プログラムに使うこととなる。Salzgitter 社は、自社製鉄所内の 100 MW 電解装置で 9,000 トンを生産する。

株式会社商船三井は、2026 年 6 月 18 日、自社が運航する LNG 燃料自動車船におけるバイオ LNG 燃料の使用拡大に向け、地中海でのバイオ LNG 供給について Aixo と新たにターム契約を締結した。2025 年 3 月に開始した北西欧州 (ベルギー・ジューブルージュ港) でのバイオ LNG 燃料供給契約に続き、地中海地域 (スペイン・マラガ港、バルセロナ港) においても、自社が運航する自動車船向けバイオ LNG 燃料の供給が可能となった。

リトアニア KN Energies 社は、2026 年 6 月 29 日、Klaipėda LNG 基地における 2027 年分の年次容量配分手続きを開始した。2 月 23 - 24 日、3 月 12 - 13 日、5 月 28 - 29 日、9 月 21 - 22 日、10 月 25 - 26 日の、5 スロットの気化容量をオファーしている。申請は 2026 年 7 月 13 日期限となる。

ブルガリア Bulgargaz 社は、2026 年 5 月 29 日、ギリシャ Alexandroupolis 近郊 LNG 基地引き渡しでの 1 カーゴのテンダーを発表した。2026 - 2027 年冬季のガス消費量分を確保するために、Chiren 地下ガス貯蔵設備に注入することとなるものとしている。引き渡しは 2026 年 7 月初旬としている。国際企業 40 社がテンダーへの参加を招請されているとしている。

Venture Global 社、ギリシャ ATLANTIC - SEE LNG TRADE 社は、2026 年 6 月 11 日、Venture Global から、2030 年から 20 年間の LNG 購入についての既存 SPA (売買契約) の増量拡張を発表した。Atlantic-SEE は、Venture Global との既存契約を、最小年間 50 万トンから、100 万トンへと 2 倍増する。Atlantic-SEE LNG は、ギリシャ AKTOR 社、DEPA Commercial 社間の合弁事業である。この増量供給契約の発表は、Venture Global によるギリシャ Alexandroupolis LNG 輸入基地気化容量への投資に続くものである。この投資分は、同基地総容量の約 25%を占める。

ポーランドの ORLEN とウクライナの Naftogaz は、2026 年 6 月 25 日、ウクライナのエネルギー安全保障と長期的なエネルギー転換に不可欠な分野でのさらなる協力の枠組を示す 2 つの覚書を締結した。両者は LNG 取引、バルト海および CEE (中東欧) 地域における気化・輸送インフラストラクチャの利用、持続可能性、脱炭素化、持続可能なトランジションファイナンス、ESG ガバナンスに関する専門知識交換で協力するとしている。

ウクライナの首相は、2026 年 6 月 1 日、ウクライナ・リトアニアが Klaipėda 基地を通じての長期の LNG 供給に関して合意に達した、と述べた。

ウクライナ Naftogaz 社は、2026 年 6 月 10 日、欧州で自社として初めて長期の LNG 気化容量を確保したことを発表した。リトアニア Klaipėda の LNG 基地で、2033 年から 2044 年にアクセスできることとなる。配分手続きが基地オペレーター企業 KN Energies により完了せられた。Naftogaz は長期条件で同基地利用権を確保した 5 社中の 1 社となった。他の参加企業は Equinor、Ignitis、Latvenergo、Gasum だった。

2026 年 6 月 3 日付のロシア大統領令は、ロシア企業 NordLine ("НордЛайн") による、Arctic LNG 2 ("Арктик СПГ 2") プロジェクトにおいて従来 TotalEnergies EP Salmanov が所有していた 10%の買収を最終的に実施することを承認した。

ロシア運輸省、Sovcomflot 社は、2026 年 6 月 18 日、北極海仕様ガス運搬船 Konstantin Posyet の命名式が行われたことを明らかにした。Sovcomflot が Zvezda 造船所に発注した 2 隻目の北極海仕様の LNG 輸送船舶である。ロシア船籍、Arctic LNG 2 との長期傭船契約で運航されることとなる。

ロシアの大統領は、2026 年 6 月 4 日、「Nord Stream 2 の 1 本は無傷で損傷はない... ロシア産ガスは、早ければ明日にでもドイツに送出できる。しかしこれにはドイツ政府の決断が必要である。Gazprom とドイツのパートナー間には既存契約があり、Gazprom との契約は進行中で、両社はコミュニケーションを維持している。Gazprom はこれまで供給を拒否したことはなく、明日にも供給する準備ができています。パートナー企業も同様にそれを望んでいる。必要なのはドイツ政府の決定だけである」と述べた。

ロシアの大統領は、2026 年 6 月 4 日、「私達はまもなく、ロシアと中国間の新たな合意によって世界のエネルギー市場を喜ばせるだろう」と述べた。

米国財務省外国資産管理局は、2026 年 6 月 11 日、Sakhalin 2 プロジェクトからの日本向け輸出に関連する取引を認める適用除外について、同年 12 月 18 日まで延長することを明らかにした。

#### [南米]

アルゼンチン Southern Energy LNG 社は、2026 年 6 月 4 日、計画している LNG プロジェクトに必要な天然ガスパイプラインの計画が規制機関 (Comité Evaluador de Proyectos del RIGI) により承認されたことを発表した。このパイプラインは、Vaca Muerta シェール構造から、リオネグロ県サンマティアス湾に天然ガスを輸送し、そこで Southern Energy の浮体 LNG 船舶がこのガスを液化することと見込まれる。

インドの総合輸送企業 Adani Ports and Special Economic Zone 社 (APSEZ) は、2026 年 6 月 8 日、アルゼンチン最初の LNG 輸出事業から 10 年間の海洋業務契約を確保したことを発表した。同契約は、APSEZ 子会社 Adani Harbour International FZCO がアルゼンチン Meridian Group とのコンソーシアムを通じ Southern Energy 社 (SESA) より受注した。同連合体は LNG 輸送船舶向けの曳船業務、洋上ロジスティクス、船員の移動など総合的な海洋業務を提供する。Southern Energy FLNG プロジェクトは Golar LNG ・ Pan American Energy (PAE) 間の合弁事業 SESA により開発される。アルゼンチンのリオネグロ県サンマティアス湾に立地、General San Martin パイプラインからの天然ガスを FLNG (浮体液化天然ガス) 船舶 Hilli Episeyo により液化するもので、2027 年 9 月の商業稼働開始を見込む。今回の契約は、Adani Harbour International FZCO ・ Meridian Group 間の 51:49 合弁事業 Meridian Transportes Marítimos 社を通じて締結された。

アルゼンチン YPF 社は、2026 年 6 月 29 日、Eni、XRG を Argentina LNG プロジェクト専用の上流部門開発に、同プロジェクトに割り当てられる Vaca Muerta におけ

るガス鉱区を保有することとなる UPCO ARLNG I 社への出資持分の一部譲渡を通じて組み込む複数の契約の締結を発表した。UPCO AR LNG I は、Meseta Buena Esperanza I・II、Aguada Villanueva Norte、Las Tacanas I・II 鉱区を持つこととなる。Eni・XRG は各 32%出資を持つこととなり、YPF は 36%持分を維持する。これらの鉱区が Argentina LNG プロジェクト開発専用となる。4 月 30 日、YPF はこれらの鉱区の 50%を持っていた Pluspetrol との資産スワップを通じて、100%所有権を獲得していた。

コロンビア Frontera Energy 社は、2026 年 6 月 1 日、99.97%所有の子会社 Sociedad Portuaria Puerto Bahía 社が Ecopetrol 社とテイクオアペイ型契約を締結したことを発表した。Puerto Bahía はカルタヘナで統合型ロジステックス・LNG 気化業務を提供する。Puerto Bahía は米国のある企業と、FSRU (浮体貯蔵・気化設備) 賃借・関連オペレーション・メンテナンス (O&M) 業務を受ける契約を締結した。この契約で Puerto Bahía は 2027 年初より当初 7 年間、FSRU 1 隻へのアクセスが得られ、追加 5-8 年延長可能とされている。

ノルウェー ECONnect Energy 社は、2026 年 6 月 17 日、コロンビアのカルタヘナ湾輸入基地に IQuay™ F-Class ジェティレス LNG 移送システムを納入するため Puerto Bahía との間で、EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約を締結したことを発表した。同基地は最大日量 0.5 bcf を供給する見込みである。2027 年初のガス供給引き渡しを見込んでいる。Puerto Bahía はコロンビアのカリブ海側第 2 の LNG 輸入基地として開発されている。

お問い合わせ: [report@tky.ieej.or.jp](mailto:report@tky.ieej.or.jp)